

# 株式会社 大山建工

W 様邸

ユーザー訪問

DATA

千葉県松戸市

2014年5月竣工

■床面積／平屋建て70.0坪(231.86㎡)

■使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(柱、内  
法材)、アカマツ(梁、床)、ケヤキ(柱)、クリ  
(濡縁)など。



青森県産材の南部赤松や杉、栗などを多用した木造建築が千葉県松戸市に完成した。1千坪の敷地に、池を中心とした日本庭園と調和して建つ数寄屋建築のW様邸。寄棟の大屋根から低く差し出した下屋が、庭を建物に招き寄せ、大屋根と重なって二重の線を描きながら、玄関から和室へと水平に流れている。設計は、建築家の前田伸治氏(前田伸治十暮らし十職一級建築士事務所代表、伊勢市)、施工は(株)大山建工(大山重則社長、五戸町)。竣工した5月(2014年)、八戸市から大型バスで向かった見学希望者など50人を中心に、前田氏が、数寄屋建築に込めた「もてなしの心」について講和した。

## 自然生かす数寄屋建築 日本人の琴線に触れる

前田伸治氏の講話 庭と建築  
が調和して一体になっているあ



“もてなしの心”が込められた数寄屋建築のW様邸

りようを「庭屋一如<sup>ていおくいちにょ</sup>」と言いま

す。庭のどこから見ても建物が自然と一緒に交わっている。普通の住宅ですと、表があつて裏があります。この建物(W様邸)に関しては、裏<sup>うら</sup>という概念がなく、庭と建物の周囲が全部交わっています。こうした建築を、数寄屋建築と呼びます。

そもそも「茶室」のことを「数寄屋」と呼ぶようになったのは、千利休の弟子の古田織部<sup>ふるたのおりべ</sup>や小堀遠州<sup>ほりえんしゅう</sup>の時代のことで、それから400年もの歳月を経ても今なお私たちの心に生き続けているのは、自然味を生かした数寄屋建築の持つ風情が、時を超えて日本人の琴線に触れてくるからでしょう。

お施主様から設計依頼のお話があつたのは、今から5年くらい前のことです。当時すでに庭を造り出して、池もできていました。

一般に、庭は建築の後に造られるものですが、逆に、庭に合わせて建築を造るのは私も初めて

の試みでした。

場所ごとに見える景色は無論のこと、動きながら移り変わる景色にも注意を払って、間取りや開口を決めました。設計だけで3年くらいかかっています。

「自然味を生かす」建築というのは、使う「木」も生き物としてとらえることです。武家社会の書院建築にみられる何の変哲もない角柱をただ形式的に立て並べる造りではなく、木の肌や、それぞれの木の持ち味を造形に生かそうというところが数寄屋の持ち味で、その意味でも丸太をそのまま使っているのが特徴です。つまり、造形に木の自然味を生かしているのです。

檜には檜が持つ柔らかさがありますし、樺は木目が男性的といった木の肌の性格があります。そうしたことを採り入れることによって造形がより豊かになる。それが日本人が深く愛する「自然」を生かした数寄屋建築なのです。



庭のどこから見ても建物が自然と一緒に交わっている





大工の技術の高さが光る寄棟造りの門

## 門からお客様を迎える 庭園と建築がもてなす

先ほど皆様（見学者）は表門から入られました。この門は寄棟にしてあります。「門」と

いうと、普通は切妻が主流なのですが、ここでは、庭園にふさわしいように寄棟にしました。技術的に、寄棟はすごく難しく、門柱があつて、その門柱から両脇に出ている腕木だけで屋根

を支えているのですが、これは相当な技量がないとできません。それを、大山建工の大工さんは難なく納めてくれました。技術の高さを改めて感じ入りました。

また、動線として門から入つてくるときに、視線の先に玄関が見えるようではいけません。なんとなく向こうにありそうな予感を漂わせ、奥が見えそうで見えない。これが奥ゆかしさ



奥ゆかしさを演出した門から玄関への動線



柔らかさの中に品格をもたせた格天井のある玄関



外に広々とした日本庭園が展開する縁廊下の大窓

なんですね。この表門を開けてお客様を招き入れるということは、家を挙げての招待客としてもてなされているということです。玄関の式台を上がる時はそういうことで、そこから入るお客様を、数寄屋の空間がもてなすというわけです。

玄関の式台に使っているのは黒松です。下足の柵は栃。天井の格天井は、あまり堅い感じに

ならないように桐を使い、棧を細くしています。そうすることによって、柔らかさのなかに品格を与えることができました。

式台から、畳敷きの取次（とりつき）になると、そこから右手の縁廊下には大きな開口を庭に向けて開け、外には日本庭園が展開します。日本庭園に建つ建築ですから、庭に面した外周を大きく開放しています。室内からの眺





庭を臨む大きな開口部と幅広い縁廊下によって実際よりも広々と感じられるリビング&ダイニング

めを妨げぬように柱間はしらまを決めたため、自ずと柱も少なくなり  
ます。そのため、外周の柱や、丸  
太桁（長さ36尺、約11mの一本  
物）に大きく荷が掛からぬよ  
う、本体の小屋組から、下屋の  
屋根裏に拮木はねぎを入れて持たせ  
ています。桁だけではとても持



縁廊下の障子を取り付けることで雰囲気が変わる

樺かほくろを張りましたが、杉を使っ  
たのではごく普通の天井になっ  
てしまうし、松は天井材として  
は不向き。雑木も考えました  
が、適当なものが見つからない。  
そんな折り、立ち寄った九州  
で目についたのがこの桧ひのきでし  
た。岩手産の樺かほくろで、本目（木目

たないところを、そう  
することによって、数  
寄屋の骨頂とする  
軽々とした風貌を表  
現しています。  
今、皆さん（見学  
者）が座っているところ  
がリビングとダイ  
ニングです。リビング  
が17畳、ダイニングが  
8畳くらいあります  
が、幅広い縁廊下  
が接しているのでそれ  
以上に広くゆつたり  
と感じられると思  
います。リビングでは、  
天井材に大いに悩  
みました。天井に何を  
張るか。結果的には





選択に大いに悩んだというリビングの天井材は岩手産の樺桜



ダイニングの天井は杉根を網代市松張りに。網代の幅を広くすることで堂々とした風情となった

の中でも特に美しい目の模様（もおとなしく、色味も淡い赤身で穏やかな表情でした。「これは使えるだろうか」と尋ねたところ、天井では使った試しがな

いが、何とかいけるだろうとの返事でしたので、加工に取り掛かってもらったのですが、薄挽きで削ったら、板が堅反りたてぞを起こして使い物にならない。幾度

か試行錯誤して、6分の厚挽ぎで木取って仕立てました。ところが今度は、吟味したつもりでも本目の具合が気に入らず、現場に入ってから二度材料を換えてもらってようやく張り納まったという次第です。

リビングに続くダイニングは、杉柁の網代市松張りにしました。和紙を裏打ちして張っています。8畳ほどの広さですが、網代の幅を広くしたので、堂々とした風情となりました。

## 木肌を造形に合わせる 空間がより豊かになる

和室に入りましたら、ぜひ畳に座って見てください。座った高さの目線で、室内を、それから庭の池とか滝とか、池の上に浮かぶ濡縁を眺めていただきたいのです。玄関の式台も黒松ですが、床脇とどわきの地板にも黒松を使っています。黒松は人にとえると、知的な御老体といったような、いかにも重鎮という雰

囲気があります。そういう木肌の持つ味わいを、造形に取り合わせるることによって、空間がより豊かになっていくのです。

天井板は吉野杉の中全なかもちく（板の中央部分が板目で端が全目）。入側いりがわ（畳一畳分の通路）に架かる小丸太の垂木は北山杉です。玄関から和室へと雁行する下屋は、200本ほどの小丸太を使った化粧屋根裏で、裏板には杉の野根板のねい（薄く割った板。へぎ板）を張っています。濡縁は水に強い栗で、大山建工の加工センターにストックしてあった栗材のほとんどを提供していただきました。

濡縁は、通常は6尺ピッチに束つかを立てないと持たないのですが、角に大きな束を立て、あとはその中間に1本ずつとしています。このようにして持たせることによつて軽々とした印象を与えることができます。実はこれも、ものすごく難しい技術を要求されるのですが、それを難なく納めているところが、大山の







和室から池に浮かぶ瀾縁と日本庭園を臨む

大工衆のレベル高さです。皆さん、よくこういう建物をみると、「お金がかかっているな」と評価されるケースが多いようです。事実、かなり手間が掛かった建物ではありますが、単にお金に換算しちゃうと、なんとも味気がない。そうではなく、いかに精魂込めて建てているか、どこにこの建物を造った

人の意図があるのだろうか、どうして大工はこんな見事な仕事ができるのだろうか、そういった「数寄屋建築に込められた心」に目を向けてほしいのです。そこから、家を造るとい背景にある、もてなしの気持ちは浮かび上がってくればさいわいです。

(写真提供/株大山建工)

真心こめた仕事への

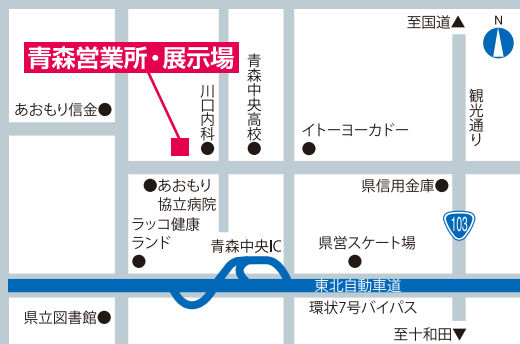


## 株式会社 大山建工

本社 ● 三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1  
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本 部 ● 八戸市大字河原木字千刈田7-1  
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033  
<http://ooyamano-ie.jp/>

青森営業所 ● 青森市東大野1丁目8-3  
TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488





# 株式会社 大山建工



(前田伸治氏撮影)

## S 様邸

### ユーザー訪問

#### DATA

三戸郡五戸町

- 床面積/平屋建て120.0坪(309.48㎡)
- 使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、母屋、天井板)、アカマツ(床、梁、胴差)、ケヤキ(柱)など。

『住宅建築を通じて地域経済に貢献』を社是に掲げ、青森県産材を使った家づくりを広めている(株)大山建工。今年(2014年)、創業35周年を迎えた。「人との出会いが新しい世界を拓く」と大山重則社長は35年の道のりを振り返る。30数年前に出会った三菱製紙の会長。茶室を建てる腕の良い工務店として大山建工に白羽の矢が立った。茶室を設計したのが数寄屋建築の第一人者、中村昌生氏(京都芸織維大学名誉教授)。京都に中村先生を訪ねた大山社長は、氏を中心に数寄屋師らで設立された財団法人・京都伝統建築技術協会に入会する。そこで出会ったのが前田伸治氏。中村昌生先生に師事し、和風建築の研究に取り組む前田氏と大山建工が一緒に仕事をすることになった現場が、10年前に、仙台で建てた数寄屋造りの木造住宅であった。そこから、南部アカマツを使う



35周年を記念しリニューアルした大山建工本部のショールーム

ことを模索し提案してきた。以来、アカマツを梁にも用い、木組みを活かした日本建築を展開している。

## 日本建築の伝統生かす 県産の木と大工の技で

五戸町切谷内で工事が進む新築現場のS様邸で、大山社長と待ち合わせた。ブルーシートで覆われた建物は、平屋である。そばに立つと、建物の端から端まで首をめぐらせなければ全容が視界に入り切らない

大きさは、相当の坪数だ。約束の午後2時に車でやってきた大山社長が、笑顔で片手をあげる。さあどうぞ。敷地は400坪で、南向きに「雁行するよう」に配した「建物は120坪。大きいわけだ。設計は建築家の前田伸治氏(前田伸治+暮らし十職)一級建築士事務所代表、伊勢市)。9月(2014年)初旬に上棟、竣工は1年後の予定という。

広いリビングの天井にアカマツの丸太梁が現わしになっている。八角形に角を落としたアカ



リビングの天井に現わしになっている八角形のアカマツの丸太梁(五戸町、S様邸)

マツの丸太を組み合わせる伝統の木組みが「大山の家」の特徴の一つだ。天井を指差して大山社長が、「梁の長さは11メートルあります。一本ものです。全部で5本使っています。11メートルの長ものなんてどこの材木店でも売っていません」。現場に使う木材を自社所有の山か、近在の

山から調達し、加工できるところが大山建工の強みだ。同社の加工センター(五戸町)から搬送されるアカマツやケヤキ、スギ、クリなど青森県産材の行き先は、県内に留まらず、東京や福岡、千葉、仙台、盛岡など全国に広がっている。前田氏の設計による福岡の料亭

嵯峨野(2012年竣工、第25回福岡県美しいまちづくり建築賞大賞受賞)へは日本海回りの一般道を3日かかりで陸送した。北海道の現場へはフェリーで運んだ。中里政義棟梁率いる大山の大工衆が青森県産材で建てる純和風建築が各地に広がりを見せている。



料亭嵯峨野(福岡市、2012年竣工。前田伸治氏撮影)

## 大きな木が沢山ある 青森は建築材の宝庫

初めて加工センターから県外へ木材を搬送した先が、仙台市だった。10年前(2004年)のことである。大山建工で建てた数寄屋造りの木造住宅を、東奥日報が取り上げた。『県産材をふんだんに使った豪壮な「数寄屋造り」の木造住宅が、このほど仙台市青葉区に完成した。五戸町の建設業者が、伝統建築の技術を生かし施工した。県産材の良さと本県の職人の技





S様邸(仙台市、2014年竣工)。千葉県松戸市に完成したW様邸見学の希望者50人は大型バスで向かう途中、仙台に建築中のS様邸も見学した

術レベルの高さを示す建築物として周囲の話題になってい『』。設計は中村昌生氏、現場監理が前田伸治氏。中村氏が施主に「腕がいい」と推薦した工務店が大山建工であった。前田氏が木材選びに五戸の加工センターを訪れた際、「青森には大きな木がまだまだ沢山ある」ことを知る。だからこそ目の細かな良質な材料が取れる。樹種も豊富。「自分の好きなように材料を使える、まさに青森は建築材の宝庫だ」と氏は讚えた。

そのことを、地元八戸から発信しようと、大山社長は県産材を使った常設展示場の建設を思い立つ。意気投合した前田氏が設計を引き受けた。アカマツの丸太を組み合わせた木組みと、数寄屋造りという日本建築の伝統を一般住宅に融合させた「八戸ニュータウン展示場」(公開終了)が完成したのは2006年(平成18年)、仙台の現場から2年後だった。



S様邸(東京都、2010年竣工)



料亭うおり茶室(青森市、2014年竣工)



W様邸(松戸市、2014年竣工)



千葉W様邸にて中里政義棟梁(左)と大工衆



青森県卓越技能者として表彰された中里政義棟梁(右)

木の美しさを大工の技で生かした展示場は評判を集めた。腕に惚れ込み、中里政義棟梁を指名して八戸市に建った住宅が「第1回あおもり産木材住宅コンテスト」(2008年度)で最優秀賞に輝く。第2回、第4回に応募した前田氏設計・大山建工施工の住宅も最優秀

賞を受賞した。

前田氏が発信するホームページをきっかけに関東、関西方面からも依頼がくるようになる。東京、福岡、千葉……へと乗り込み、長期滞在して現場を納めてきた中里棟梁は、2013年に青森県卓越技能者として表彰され、現代の名工となった。

「地域の山で育った木を使い、その木を熟知して生かす中で大工の技が磨かれてきた。木造建築は古来より継承されてきた日本の文化なのです」と大山社長。だからこそ「木」と「技」を次代へ引き継ぐのが地元工務店の努めだ、と訴える。

大山建工の、これまでの粋を集めた建築がS様邸。竣工の暁には、リビングから見る庭園や遠景に広がる山々が鮮やかな紅葉の彩りを添えてくれるに違いない。

【間取り】LDK、和室、寝室、茶室、納戸。

真んこめた住まいづくり

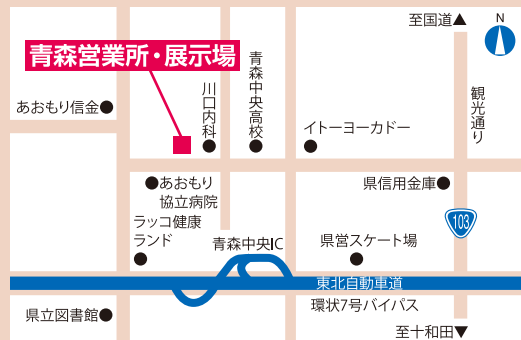


## 株式会社 大山建工

本社 ●三戸郡五戸町大字切谷内字淋代14-1  
TEL.0178-68-3353 FAX.0178-68-2454

本 部 ●八戸市大字河原木字千刈田7-1  
TEL.0178-21-3055 FAX.0178-21-3033  
<http://ooyamano-ie.jp/>

青森営業所 ●青森市東大野1丁目8-3  
TEL.017-762-3001 FAX.017-729-0488





## 有限会社 岡田工務店

留目 俊孝 様邸

ユーザー訪問

DATA

三戸郡南部町大向

2014年10月竣工

■床面積／平屋建て26.0坪(86.12㎡)

■使用青森県産材／スギ(柱)、ヒバ(仏間の建具)など。



黒色のガルバリウム鋼板を張った平屋の留目<sup>とどめ</sup>俊孝様邸。そのモダンな外観からは、建て替える前にそこに築100年を超える古い家があったとは想像し難い。当初の計画では、既存住宅の裏手に新しく家を建て、完成してから解体する計画だったという。とこ



黒色のガルバリウム鋼板を張ったモダンな外観

が働いたものだろう。うなずきながらそう話す留目様に、こちらもうなずいていた。

### 築100年以上の古家 リフォーム計画を中止

留目様の話 もともとは、建て替えてなく、リフォームする計

ろが、それだともう何かとうまくいかない。そこで、先に古い家を解体し、その跡地に建て替えることにした。完成した家の窓から、真正面に名久井岳が見え、そこから昇った朝陽が真っ直ぐに仏間に射し込んだ。それを目にして、裏手に家を建てていたなら仏間に朝陽は入らなかった、ことに気がついたという。元の場所<sup>とどめ</sup>に建てなさい——というご先祖の力が働いたものだろう。うなずきながらそう話す留目様に、こちらもうなずいていた。

画だったんです。私の曾祖父が明治に建てた築100年以上の古い家ではあるけれど、壊してしまうとなると、何か抵抗を覚えて、それで一部をリフォームしよう。私の職場の同僚が岡田工務店でリフォームしているのが一つのきっかけで、岡田さん(岡田大作専務)に依頼しました。あのときもし台風が来なければ、昨年うちにリフォームをしてしまっていたのです。台風で川が氾濫して、浸水したんです。ここ14、15年の間に4



空間にさりげなく「木」を採り入れた玄関ホール



壁の白、建具の黒に床の木肌の色が調和したリビング

回も5回も床上浸水しました。昔の建物だから基礎はなく、石に土台をのせただけなのでいくらでも床下に水が入り

込むんです。またもや浸水したことで、あきらめがつきました。**岡田専務の話** 築100年以上の家ともなれば、代々暮らし

てきた人たちの歴史が刻まれていますからね、壊すのは忍び難いものがあるでしょう。でも、リフォームから建て替えに変わ

わって、正直なところほっとしましたよ。川がまた氾濫すれば元のままの部屋は水浸しになるし、温暖化のせいかだんだんと氾濫が頻繁になってきているようなので、そのたびに水をかき出したり、たいへんな思いをくり返すわけですしね。

私が思うには、リフォームを中止させたのは、台風ではなく、子孫の暮らしの安泰を願うご先祖のご加護だったのかもかもしれませんよ。名久井岳から昇った朝陽が、ちょうど計ったみたいに真っ直ぐ仏間まで射し込むという偶然も、先祖の導きかもしれないですね。陽が射すのを計算してリビングのその場所にフィックス(嵌め殺し窓)を付けたわけではないのです。ご先祖の思いが働いたと思えます。

**留目様の話** 駅前(青い森鉄道三戸駅前)にある清水屋旅館のリフォームで、岡田さんが賞を受賞したんです(総合住生活企業(株)LIXIL主催「L I



XIレメンバーズコンテスト  
2012』で地域優秀賞受  
賞)。それを、新聞で見たので  
す。清水屋旅館が外壁をリ  
フォームしたことは知っていま

したが、その工事をしたのが岡  
田工務店だとは新聞で知りま  
した。曾祖父が建てた家と同じ  
時代の清水屋旅館が、まるで建  
て替えられたみたいに現代風



名久井岳から昇った朝陽が計ったように真っ直ぐ射し込む仏間

に変わって、正面に格子を立て  
た京町屋の垢抜けた雰囲気  
目を見張ったものです。黒色を  
基調に、えんじ色を配した色使  
いのセンスの良さが印象に残り  
ました。

## 窓の真正面に名久井岳 朝陽が仏間に射し込む

— 清水屋旅館とは以前から



対面式のキッチンではあるが、正面の壁で手元が隠れるように設計している

ね。お付き合いがあったそうです

**留目様の話** 仕事関係の宴会  
や、個人的には母親が亡くなっ  
たときに法事の会食の場とし  
ても使わせてもらったりしてい  
ました。馴染みの清水屋旅館  
と、岡田工務店が結び付き、私  
の同僚も岡田工務店でリ  
フォームしているし、岡田さん



基調とした白色が清潔感を醸す洗面室

の親戚の方も職場で一緒に働いているなど、いろいろなことが縁となって岡田さんに頼むことになりました。

**岡田専務の話** 留目様邸は、玄関に入ると、ホールの東側がリビングのドア、その反対の西側に仏間の入り口戸が建っています。リビングのドアを開ける

と、目の前に縦長のフィックスがあつて、その真正面に名久井岳が望めます。ここで暮らしてきたご先祖様たちはいつもここからご来光を仰いでいたに違いありません。そのフィックスから入り込んだ光が、戸を開けた仏間に、真っ直ぐ射し込むのです。それと、古い家の仏間が、新

しい家の仏間と当てはめたみたいと同じ位置だったという偶然にも驚きました。元と同じ位置になるように、裏手に建てる計画を止めさせたのは、やはりご先祖でしょう。

**留目様の話** リビングもそう、前の家と同じこの場所なんです。初めからそうしようと思つたわけじゃないのにね。つくづく不思議です。目に見えない力が働くものだなということ、を、今回実感しましたよ。

リフォームが中止になり、建て替える場所も変わったりと二転三転しましたが、あとは外観の色も室内の仕上げについてもいっさい岡田さんのセンスにお任せしました。洗いや色合いに満足しています。ご先祖も喜んでくれているはずですよ。

**【間取り】**「一日は寝室から始まる」とは設計した岡田専務の弁。家のいちばん奥に寝室を設け、中央のキッチン・ダイニングからリビングへと通って、玄関から外に出る。この他、仏間と、水回り。

## 有限会社 岡田工務店

三戸郡三戸町大字川守田字東張渡48-1  
TEL.0179-23-6727 FAX.0179-23-6728  
<http://www.14.plala.or.jp/bigmake/>  
E-mail : okada.office@orchid.plala.or.jp





# 有限会社 キーポイントホーム

大柳 様邸

ユーザー訪問

DATA

弘前市一町田

2014年4月竣工

■延べ床面積/32.75坪(108.47㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、床、内壁)、カラマツ(梁)など。



「キーポイントがいいよ」  
不動産屋の紹介が縁結び  
ご主人の話 振り返ってみれば、不動産屋の方が、キーポイントホームがいいよ、って紹介

生後4か月の赤ん坊を抱っこした奥様が左端、4歳になるお嬢ちゃんが真ん中、隣からお嬢ちゃんを笑顔にさせようと笑いかけるご主人——大柳様ご家族が小上がりには並んで座って、記念写真を撮る。換気が悪く、狭苦しかったというアパートからすれば、自然の木に囲まれた別天地のよう새新しいわが家。満足が表情に表われているご夫婦の間で、カメラを意識してなかなか笑顔にならないお嬢ちゃんに向かい、はい、いぎますよー、カシャ。もう一枚、カシャ。あら、お嬢ちゃんが笑いながらあかんべーをしていました。それもまた良しの幸せそうな家族写真。

してくれたことが大きかったですね。この土地を売り出した不動産屋の方が、キーポイントホームで建てた五所川原の現場(工藤様邸、『青森県産材でエコな家づくり』Ⅳに掲載)を、た



自然の木に囲まれた新しいわが家にご満悦の大柳様ご家族

またまそばを通りかかって見学したんだそうです。室内の造りが、いかにも若夫婦にふさわしくおしゃやれで、しかも床はスギの無垢材だから、また小さい子供が這い這いしても害がな



モダンなイメージと和の雰囲気が融合した小上がり



小上がりの下には収納を設け、スペースを有効に使用

いように健康にも配慮しているし、それで、同じような年代の私たちにも合うだろうと紹介してくれたんだそうです。まさに「縁結び」でした。

——家を建てる前のお住まいは？

奥様の話 アパートに住んでいました。換気は悪いし、湿気が多くてカビは生えてるし、2人目の子供はきれいな家で育てたい、という気持ち募ってきて、土地を買って家を建てようとして計画したんです。ローンの支払いは長いけど、アパートの家賃並みの支払いに抑えられましたから、踏み切って良かったです。上の子はまだ4歳ですけど、アパートだと騒いだりできないことは子供なりに分かっていて、だから自分の家で思いつ切りのびのびと遊ばせてあげたかったですね。今は裸足で家の中を駆け回ってますよ。

ご主人の話 実はキーポイントホームと出会う前に、ある工務店で少し話を進めていたん





ですが、どうも担当の営業マンとそりが合わないというか、こつちが質問しても、知りたい答えがストレートに返ってこないんですよ。どのくらいの大きさの家が建つものなのか、それとお金はいくらぐらいかかるものなのか、月々の支払いのこととか、返済期間のこととか、そのへんがいちばん知りたいじゃないですか。阿保さん（阿保勝之社長）の良かったところは、それらの質問に、一つ一つ実に丁寧に、分かりやすく教えてくれたところです。月々の支払いがアパートの家賃並みで抑え

られると知って、よし、建てるか！ となったわけですよ。

### 念願の自由設計で新築 込み上げた嬉しき、感謝

—— 間取りや、仕上げなどについてはどんなアドバイスがありましたか。

ご主人の話 いっぱいアドバイスを頂きましたが、階段の壁に、ラティスをはめ込んだほうが良いというのもその一つです。ひし形の格子が模様にもなっていますし、スギの木肌がリビングの腰板とマッチしているし、見た目に柔らかくてとってもい



遊び心を感じさせる壁をくりぬいたニッチ（飾り棚）



職人の技が光る階段の斜面に沿って斜めに組み込まれたひし形のラティス





成長した時点で2室に区切ることができる子供部屋

いす。阿保さんに聞いて、なるほどと思ったんですけど、この階段の斜めになった壁面に、ひし形のラティスを組み込むのは

難しくて建具屋泣かせだったんだとか。確かに、横に組み込むなら問題は無いけど、斜めになると、難しそうだなって思い

ますね。手間はかかるけど、こうしたほうがいい、と判断すれば実行してくれるところが、信頼感につながりますよね。

奥様の話 建売住宅も考えたんですけど、さつき主人も話しましたけど、土地を買って、家を新築するとなると支払いがかさむんじゃないかって、そこがいちばん気がかりな点でした。

注文建築で建てられるならそれに越したことはありませんが、支払いがともなつての話です。そこを、阿保さんは、的確にアドバイスしてくれて、「大丈夫ですよ、自由設計で建ちます」って言われたときにはもう嬉しさが込み上げましたね。

キーポイントホームを紹介してくれた不動産屋さんの方にも、感謝です。

【間取り】1階はLDK、水回り。2階は主寝室、子供部屋（成長した時点で2室に区切る）。岩木山が望める玄関ポーチ上部のベランダがご夫婦のお気に入り。



## 有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
 TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
<http://www.ki-pointhome.com/>  
 E-mail : staff@ki-pointhome.com







# 有限会社 キーポイントホーム

## 〇 様邸

## ユーザー訪問

### DATA

弘前市泉野

2014年3月竣工

■延べ床面積/36.0坪(119.23㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(柱、床、天井)、カラマツ(梁)など。

青空が見えているうちに外観を先に撮影することにした。カメラを取り出すと、〇様のご主人が、「閉めましようか」と2階の窓を振り仰いだ。窓を閉めたほうが、家の写真映りはいい——その配慮に、完成したわが家を気に入っている。ご主人の気持ちがあがえた。右側から角度を変えながらシャッターを切っていく。液晶モニターに映し出した写真をお見せすると、玄関の右側からカーポートを入れて撮った外観を、「これがいい」とご主人が指差して、微笑んだ。

## 県産材使用にこだわり 床は温かな無垢のスギ

ご主人の話 印象に残ったのは、床の木の温かさでした。キーポイントホームの展示場を訪ねたときのことです。一緒に行った妻が、「床暖しているんですか?」と聞いたくらいに温



冬場の靴とコートを乾燥させるため、床暖房が施されている玄関のタタキ

かく感じられたんですよ。11月で、体が冷えていたのでなおさらそう感じたのでしょう。応対してくれた阿保さん(阿保勝之社長)が、床に張っているのは無垢のスギで、無垢材には保温効果があるから冷たくないのです、と説明してくれました。青森県産のスギなんだそうです。県産の木材を使うことに阿保さんはこだわっています。『地域ブランドの家』なんだって合点がきました。

奥様の話 キーポイントホー

ムに決める前には、展示場とか完成見学会の家をけっこう見ましたよ。何軒も見ましたが、他社とキーポイントホームとの違いが分かるようになったと思うんです。他社ではたいがい家の構造よりも“設備”の説明に熱心でした。最新のキッチンとかユニットバスとかトイレとか。でも、阿保さんはまったく違って、まずは木の話からなんです。床に張っているのはスギの無垢材で、県産のスギだと。家づくりに使える樹齢のスギが県内の山には豊富に育って



陽光が射し込むことでスギの美しい木目がさらに引き立つリビング

「阿保さんに頼みます」  
**土地探し、建物に信頼**  
 ご主人の話 阿保さんがあれこれ提案してくれた中に、収納のつくり方があります。ただ単にクローゼットとか押入れとかの収納スペースを設けるのではなく、その中身ですね、どこに棚を設けるとか、洋服を吊るすパイプをどの位置に付けるとか、そういうところをこうしたらいいと具体的に提案してくれました。それがすごく助かりましたね。  
 奥様の話 それと、阿保さんは不動産取扱の免許を取得されていて、土地の情報を幅広く

いて、それを使うことで森林が整備され、地域の環境が良くなる、と。表面的なものより本質を大事に考えている方だな、とお話を聞きながら思っていました。

キャッチできるといふことでした。土地探しにしても建物にしても信頼できそうなので、「阿保さんに頼みますからよろしくお願いします」って電話したんです。

【間取り】冬場の靴とコートを乾燥させるため玄関のタタキに床暖房を施している。1階はLDKと琉球畳敷きの客間、水回り。2階は主寝室、息子さんとお嬢さんの子供部屋2室。



白をベースにした落ち着いた雰囲気と「木」が融合した子供部屋







天井に張ったスギと、畳がよく合う和室

う前に、ある工務店の方とお話  
 する機会があったんですが、  
 たとえば薪ストーブのことを  
 聞いても、あまりよく知らない  
 のか、それとも薪ストーブは薦  
 めたくないのか、どうも何を聞  
 いても煮え切らない態度だった  
 ものだから、なおさら阿保さん  
 のイエス、ノーのはつきりとし  
 たところが気に入ったんです。  
 —— 展示場の床板の感触はい

かがでしたか。

奥様の話 そうそう、温かく  
 て、てつきり床暖房しているの  
 かと思ったら、スギの板を敷い  
 ただけとか。わたしだけでな  
 く、見学に来られた皆さん床暖  
 だと思っただけですよ。自然  
 の無垢材には柔らかな温かさ  
 があるということも、それと一  
 言に「木」といっても無垢材と  
 か、工場生産の合板とか、同じ  
 無垢材でも県産のスギや、外材  
 のナラがあるとか、そういうこ  
 とも初めて知りました。

### リンゴ剪定枝を薪に 地域資源の木を活用

阿保社長の話 展示場には3  
 種類の見本の板を置いていて、  
 お客様に違いを体感していた  
 だいています。3枚とも表面温  
 度は同じ20度でも、手で触つて  
 みると体感温度が違うのです。  
 堅いとか柔らかいとか、冷たい  
 とか温かいとか。いちばん温か  
 く感じるのが県産の無垢のス  
 ギです。スギは、優秀なんです



風格のある薪ストーブが鎮座するリビング。薪にはリンゴの剪定枝を活用している





階段ホールの多目的スペースは家族で活用する触れ合いの場

よ。真冬に素足でも冷たくないのは保温力が優れているからです。すっかり奥様もスギが気に入ったようで、床・壁・天井はも

ちろん、カウンターテーブルにも、階段ホールの書棚にも使っていたいただきました。圧巻は、幅1間半のリビングの掃き出し

窓に建てた2枚の障子戸です。これも無垢のスギですが、陽にあたっても反らないように枠の厚さがなんと42ミリもありま

す。これほど頑丈な無垢材の建具は初めて作った、と職人も驚く大作です。三浦家のシンボルですよ。

——薪ストーブにこだわりのあるようですが、付けようと思ったきっかけは？

奥様の話 リンゴの木なんです。春先に切るリンゴの剪定枝。両親が弘前市内でリンゴ農家をしていて、実家に帰るたびに、畑に積まれたままになっている剪定枝がもったいないなっでずっと思っていたんですよ。それで、家を建てるときには薪ストーブを付けて、それを燃やそうって。リンゴの木も地域資源だから活用しなくちゃ。両親だけでなく身内にもリンゴ農家がいるので、木はじゅうぶん集まるんです。

——グリーンツーリズムで、千葉の中学生をお泊めになられたそうですね。

奥様の話 わたし、7年前に調理師の免許を取得しました。それから「食育」に目覚めたんで



キッチンと対面するスギのカウンターテーブル。ご主人はここで晩酌を楽しむ

す。ピーマンが嫌いだという知り合いのお子さんに、畑でピーマンの収穫を体験させたら、食べるようになったんですよ。土の力というか、農業ってすごいなと思いますね。都会の子供たちにも体験してもらおうと、今年の6月に、修学旅行でやってきた千葉の中学生のうち女子4人を、畑でトマトの畝の土寄せをしてもらったあと、わが家に1泊してもらいました。

都会の子たちって、マンション暮らしが多いようで、1戸建ての住宅も、薪ストーブも珍しいらしく、歓声を上げながら室内を見て回っていましたよ。来年もまた生徒たちを、この木の家で、もてなします。

【間取り】1階はLDKと、リビングの続きに和室6畳、水回り。奥様のお気に入りは室内が見渡せるキッチン。キッチンと対面するスギのカウンターテーブルでご主人は晩酌を楽しむ。2階は主寝室と、2人兄弟の2室。階段ホールの多目的スペースは家族で活用する触れ合いの場。



## 有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
 TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
<http://www.ki-pointhome.com/>  
 E-mail : staff@ki-pointhome.com

